

平成 29 年 6 月 14 日

高大接続改革の進捗状況に関する意見

一般社団法人 公立大学協会

文部科学省から 5 月 16 日に公表された高大接続改革の進捗状況については、困難な課題に対しての関係者の調整の結果として重く受け止めたい。

今回大学入学者選抜改革については、「大学入学共通テスト（仮称）の実施方針（案）」とともに、個別大学の入学者選抜の改革についても「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告（案）」が取りまとめられた。これらについて、以下に意見を述べる。

1. 「大学入学共通テスト（仮称）」実施方針（案）について

- 大学入学共通テスト（仮称）における記述式問題の作問、出題、採点については、大学入試センターで行う実施方針が示された。このことは、大学の負担への配慮として評価する。
- しかし、共通テストの成績提供時期が、従来の大学入試センター試験と比べて 1 週間程度遅れることが示された。共通テストを課す A0 入試及び推薦入試を実施する場合、現状の日程では実施が困難であることが懸念される。
- 本協会では実施要項の変更も念頭に置きながら確実な大学入学者選抜の実施に向けて今後の対応を検討する必要があることから、成績の提供方法及び共通テストの成績活用の方法の案を早急に示していただきたい。
- 共通テストの英語試験の取扱については、A 案（平成 32 年度以降は共通テストを実施せず、認定試験を活用する）及び B 案（平成 35 年度までは共通テストを実施し各大学の判断で共通テストと認定試験のいずれか、または双方を選択利用できる）が示されている。
- 現時点において具体的な成績提供の方法等が示されておらず、一挙に A 案を採用することに対して不安の声が多く聞かれている。高等学校及び大学において混乱が生じないように配慮いただきたい。

2. 平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告（案）について

- このたび、大学入学者選抜にかかる新たなルールの設定に伴い、従前の A0 入試、推薦入試、一般入試の区分の見直しが行われた。ルール設定の趣旨に述べられている、学力の 3 要素を多面的・総合的に評価することの重要性は、

すでに関係者に十分な理解を得ているが、評価の指標及び手法については、未だ具体的なものが示されておらず、各大学は新たな評価への対応に苦慮しているところである。

- 評価の指標及び手法等については、大学入学者選抜改革推進委託事業等により今後検討が進むものと思われるが、その検討結果について積極的な情報公開に努めていただきたい。

- このたびの予告（案）には、調査書や提出書類等の改善についても示されているが、とりわけ調査書の電子化は大学にとっても期待が高いものであることから、早急に検討を進めていただきたい。

大学入学者選抜改革は社会的な関心度が高い事柄であり、その影響は大きい。各大学においては新たな入試システムの構築を早急に検討することが求められる。現在未確定の部分についても、速やかに結論を出していただくことを要望する。

以上